

科目名	企画科目(古文書解読B)						学期	前期	
副題	『大日本史』編纂関係文書を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-269	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、近世の水戸藩における『大日本史』編纂に関する文書や史料を読む。本年度は、主に佐々宗淳が延宝8年(1680)に実施した、南都の史料探訪に関する報告書(『史館旧記』所収)を読むことで、古文書の解読能力を高めるとともに、近世の歴史学の発達についても学ぶ。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進捗や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

近世の古文書に関する読解能力を身につける。古文書を通して、『大日本史』の編纂過程を説明できるようになる。歴史研究の営みや史料批判について、基礎的な認識を得られるようになる。

授業計画

1. 古文書序説(古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など)
2. 河合正修『史館旧話』を読む①—徳川光圀と周囲の学者たち—
3. 河合正修『史館旧話』を読む②—徳川光圀と周囲の学者たち—
4. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む①
5. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む②
6. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む③
7. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む④
8. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
9. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む②
10. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む③
11. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む④
12. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑤
13. 古文書・古典籍の複製を扱う
14. 史跡見学(1)
15. 史跡見学(2)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に見える専門用語や文献について理解しておくこと(90分) 講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと(90分)

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000~2002年) ②佐藤進一『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) ③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年) ④但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、50%)、期末試験(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。(例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。なお、本演習では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。